

の生活を益々窮乏のどん底に陥し入れた。働きたくても仕事のない失業者の数は三百萬を超へ、仕事に就いてゐる労働者は、昇給賞與の廢止、出來高抑制、時間延長によつて磨滅されてゐる。工賃銀の加減も昨年中に三割五分を減らされ、その上賃金の不調工場が全國に八百五工場、不調賃銀は二百十數萬圓に達し労働者の生活は極度の不安と窮乏にさらされる。日本に於ける農民の生活については何時も自作自給と云ふ言葉で表らわされてゐたがその根本的を問題に耕作地が農各園よりすくないこと、土地所有制による地主の搾取によるものである。殊に最近に於ける農産物の下落、農産物公賣の加高、肥料の値上がり、高利による借金等によつて農民の生活は飢饉状態である。税金、日用品の支拂や醫者の代金が米や綿で交換され、青森秋田ではワラビ、フスマを喰ひつくして大瀧を救して喰えをしめてゐる。有様である。斯くの如き窮乏餓饉のどん底にある労働者農民の生活のための開

争は、プロレタリアートの指導の下に益々進展してゐる。本年一月から六月までの労働争議は七二八件でこれ等の争は、日和見主義のクラウチの裏切りと喰ひとめにもかかわらず革命的大衆行動に展開してゐる。農民争も一月から六月まで一千二百一十一件で昨年より二割以上増加したばかりでなく、北海道^大網走山前、美本等に於ては地主、警察署、裁判を襲撃し流血の争を起すなど争は激化し、税金借金、家賃料値下げに對する争も全國的にひろがり殊に「米よこせ」の争は東京に於ては五万人の署名がなされ、長野青森美本その他に於ても労働大衆の最も正しい要求として決死的に闘かわれ暴動化してゐる。朝鮮之等の争は解放運動激化者即時解放、帝國主義戦争反對の大衆的行動に發展してゐる

資本家地主共は昨年九月南滿事變をブツチあげて以來毎月二千萬圓の莫大を戦争費用に使つて労働者農民や婦女子までも磨滅し